

農村振興局長賞

きたしよ
北庄中央棚田天然米生産組合（岡山県くめなんちよ）

きたしよ
「癒しの里 北庄」の創成 ～都市との交流等により苦農から楽農へ～

岡山県のほぼ中央部に位置する久米南町の北庄中央地区は、すり鉢状の急傾斜地の底から、わずか2a程度の小さな水田が段々と積み重ねられた棚田が見られます。地域一帯は美林に囲まれ、人と自然が奏でる造形が見事であり、この農村の原風景を求

め、年間を通じ多くの都市住民が訪れます。

北庄中央棚田天然米生産組合は、先人から引き継いだ棚田を活かし、棚田天然米産地の育成を図るために、平成6年5月に北庄中央地区の農家24戸の参加を得て発足しました。



組合員は、1戸当たり棚田3a以上で有機低農薬米を栽培しています。この米は、種子消毒や天日架干^{てんぴかけほ}しなど昔ながらの方法で栽培したものです。

棚田で収穫された米は、今摺米^{いまずりまい}として道の駅「くめなん」での販売や、年間契約者等に直販され、棚田米の人気は高まりつつあります。

また、当地を訪れる人々への棚田の情報提供と組合員とのコミュニケーションのため平成16年11月に「棚田ファンクラブ」を設立しました。現在では県内外から約20名が登録されています。会員相互の交流も兼ねて設置した「棚田写真館」には、会員から寄せられた写真等約200点が展示されており、その作品を鑑賞すれば初めて訪れた人でも棚田の四季のうつろいがわかるようになっています。

さらに、地域住民、棚田ファンクラブ、小学生等との交流を図るために、毎年11月に「収穫感謝祭」を開催しています。棚田ファンクラブ会員の写真コンテスト、地元住民及び小学生による花や野菜の品評会等が行われ、毎年約200名の参加者で賑わっています。その他平成14年度からは田んぼの学校「棚田の里ふるさと発見塾」を開校しています。子どもたちは、「水」と「土」にふれ、「食」と「農」の大切さを肌で感じ取り、農村環境に関する豊かな感性を育てています。



棚田での有機低農薬米の栽培では、機械作業が制約される重労働を強いられるため、中途半端な心構えでできるものではありません。組合員は、高齢による肉体的な衰えを感じつつも、都市住民や地元小学校児童等との交流を通じ、棚田の農作業にやりがいを見だし“苦農”から“楽農”へと発想の転換を図り、今日まで営農活動を続けています。その結果、耕作放棄地の抑制、棚田の景観保全など、一定の成果を上げることができました。今後は労働力確保のため、集落営農を推進するとともに、サポート会員を募るなど人的交流の輪をさらに広げ、『癒しの里 北庄』を次世代へ引き継いでいきます。

■講評

棚田天然米生産組合は、75歳以上の高齢者が活動の主体となっている。「苦農より楽農へ」のスローガンのように、写真を介した棚田ファンクラブなど都市住民の力も借り、評判の高い棚田米(今摺米)を楽しく作っているところが評価されました。この活動により都市と農村の交流活動が盛んになり、集落の活性化が図られたのと同時に、小学生たちに農作業を通じて農業の大切さと山村のもつ重要な役割を教えた点が素晴らしい。

